

医療情報セミナー「診療情報の共有のための標準化の現状と今後」

日時： 12月7日 午前10時～11時

場所： 医療情報部 システム開発室
(第2病棟 5F)

演者： 国立保健科学学院 統括研究官
愛媛大学医学部附属病院 医療情報部 客員教授
木村 映善 先生



セミナー内容：

がん基本法にともなうがん登録や学会主導の疫学研究や観察研究、AI 研究を目的とした症例登録事業が行われている。これらの登録事業には電子カルテに蓄積された診療情報の活用が重複登録などの入力負荷軽減、転記ミス、データ欠損等による情報の質低下を防ぐために重要な課題となっています。これらの情報の多施設から共有し、症例登録事業横断的に効率的に行うために用語の標準化、情報活用・交換規格の標準化が必要です。

世界的には、HL7、ISO13606 (Open EHR) といった医療情報の標準化、CDISC といった臨床研究における標準化規格が提案され、アメリカにおいては、最近、HL7 FHIR といった医療情報の交換規格が多くの電子カルテベンダーや Google、Apple などでも採用されております。

木村映善先生は、医療情報のスペシャリストとして、愛媛大学医療情報部における長年のさまざまな実績の上で、これらに関わる研究を精力的にされており、国内の医療情報学会の中での牽引者の一人です。

本セミナーにおいては、「診療情報の共有のための標準化の現状と今後」、特に、診療情報の標準的交換に関わる HL7 FHIR を中心に話題を提供いただく予定です。

多数のご参加をいただけますようご案内致します。

医療情報判断学講座